

開催館名 平戸市生月町博物館・島の館

企画展名 生月島の漁業の発展

開催期間2025年 7月26日（土）～2025年10月13日（月）



開催状況写真（ハイライト）



開催状況写真（ハイライト）

【企画展の目標】

- 生月島の捕鯨や定置網、捕鯨からまき網へといった水産業の歴史を紹介することにより、生月島が、海と深くかかわりながら発展してきたことを来館者に理解してもらう。
- 館浦競漕船大会でブース展開し、江戸時代に生月島で栄えた益富組捕鯨の様子を描いた「勇魚取絵詞」のパネルを展示し、鯨組の益富組の祝いの席で唄われ、現在にも伝わる生月勇魚捕唄（長崎県無形民俗文化財）を披露していただくことにより、来場者に、実際に櫓漕ぎが行われていた当時の捕鯨や、捕鯨が培った生月島の特色ある文化を肌で感じてもらう。
- むかしの漁撈具と現在の合成樹脂製漁網を展示し、現在の合成樹脂製の漁撈具の功罪と漁業とプラスチック・ゴミ問題が無関係ではないことを紹介。プラスチック・ゴミの問題に対処するためにはじまっている生月島での取り組みについて展示する。

1. 企画展示の内容

- 開催期間：2025年 7月26日（土）～2025年10月13日（月）
- 開催場所：平戸市生月町博物館・島の館 企画展示室
- 入場者数：2,806 人



平戸市生月町博物館・島の館 外観



企画展会場 入口



企画展会場内の写真（1-①）

生月島の定置網について紹介している。生月島の定置網の網代が江戸時代（捕鯨がはじまる前）からあり、当時は鯨組の益富組が経営していたことを江戸時代の史料で紹介し、それらが現在に継承されていることをパネルで示している。

また、現在の定置網の操業風景がわかるように写真パネルを展示するとともに、定置網を身近に感じてもらうため、実際に使われている網をケースなどに入れずにそのまま展示している。



企画展会場内の写真（1-②）



企画展会場内の写真（2-①）



企画展会場内の写真（2-②）

主に合成樹脂を用いて作られている現在の漁撈具との違いを理解してもらうために、自然素材を多く用いて作られているむかしの漁撈具を展示している。また、さまざまな漁撈具を展示することで、生月島で行われている、あるいは行われてきた漁業について知ることができるように紹介している。併せて、「未来への挑戦」と題して、合成樹脂が用いられ、耐久性やメンテナンス性の面で優れている反面、環境負荷や廃棄についての問題を深刻化させている合成樹脂製の近年の漁網について、プラスチック・ゴミにしないようにし、海を守ろうとする生月島の漁網リサイクルの取り組みについて紹介している。



企画展会場内の写真（3-①）



企画展会場内の写真（3-②）

生月島で、江戸時代に行われた捕鯨について理解してもらえるように、江戸時代末期に日本一の鯨組に成長し、明治時代まで捕鯨を行った益富組の組主であった益富組が所有する捕鯨道具や、江戸時代の益富組の捕鯨の様子を描いた「勇魚取絵詞」をパネルで紹介している。



企画展会場内の写真（４-①）



企画展会場内の写真（４-②）

捕鯨と入れ替わって登場した、巾着網漁について紹介している。巾着網漁は、現在の遠洋まき網漁業へと発展するが、この発展について写真パネルやまき網漁船の模型や実際に使われていた操舵機などとともに展示している。

【来館者の声】

- 海というより鯨と日本人の歴史を学べました。有意義でした。
- 捕鯨も含め、日本人と海の歴史を更に知りたいと思いました。
- 捕鯨の歴史に興味をもったと同時に、現在もつづく生月の漁業についても知りたいと思っていたので、企画展を見ることができて良かった
- 生月の今の漁業を知れてよかった。
- まき網、定置網の展示が分かりやすかったです
- 生月島の漁業の重要性が感じられました。
- リサイクルの展示を見て、海洋プラスチックの問題など、今後取り組むことが大切だと思いました。
- 漁網リサイクル（の展示が良かった）。網は処分するしかないと思っていたけれど、リサイクルの視点もあることを初めて知りました。
- これから 10 年後 100 年後の海についての、今、生活している人間の取り組み（が分かった）。
- 海は、船などみんなが使う場所だからこそ大切に使おうと思いました。
- 大漁旗の展示が良かったです。実家にあつたのを思い出しました。

2. 関連事業の内容

■ 関連事業名①

【開催日時】 2025年 7月27日（日） 8:30 ~ 13:00

【開催場所】 館浦漁港

【参加者数】 1,305名

【目標・内容】

- 櫓漕ぎの技術を継承しようとはじめられた、館浦競漕船大会にブースを設置し、島の館の企画展の出張展示として「勇魚取絵詞」をパネルで展示し、生月勇魚唄保存会に生月勇魚唄を披露してもらうことで、櫓漕ぎに触れながら、櫓漕ぎの時代に栄えた捕鯨や捕鯨に関連する文化に親しんでもらう。



関連事業の実施状況写真（1-①）



関連事業の実施状況写真（1-②）



関連事業の実施状況写真（1-③）



関連事業の実施状況写真（1-④）

櫓漕ぎの技術を継承する館浦競漕船大会で、実際に櫓漕ぎが行われていた当時の生月島で栄えた捕鯨や捕鯨の培った文化について、博物館に来館する機会の少ない人たちも親しむことができるように、生月勇魚唄保存会に生月勇魚唄を披露してもらい、さらにブースで生月島を拠点になされた益富組の捕鯨が描かれた、江戸時代の「勇魚取絵詞」をパネルで展示・解説した。

開催館名 平戸市生月町博物館・島の館

企画展名 江戸時代に栄えた日本一の益富組捕鯨

開催期間2025年 11月22日(土)～2026年1月12日(月)



益富家の先祖と伝わる
山縣三郎兵衛肖像画(益富資料)



「勇魚取絵詞」(大村市歴史資料館蔵)

【企画展の内容・目的】

- 生月島の水産業発展の礎と言える古式捕鯨、益富組捕鯨創業から300周年を迎えることを記念し、益富組捕鯨の迫力を伝える。
- 益富組捕鯨創業300周年記念シンポジウム「益富組捕鯨の成り立ち」を実施し、益富組の組主益富家に伝わる史料に詳しい研究者や学芸員を集めて討論を行い、益富組の捕鯨や鯨の解体、捕鯨によって得られた鯨油などの鯨製品の流通についての理解を深める。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

1. 企画展示の内容

- 開催期間：2025年 11月22日（土）～2026年1月12日（月）
- 開催場所：平戸市生月町博物館・島の館 企画展示室
- 入場者数：1,549人



平戸市生月町博物館・島の館 外観



企画展会場 入口



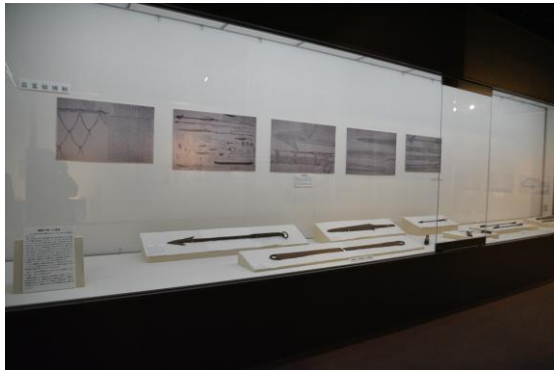
企画展会場内の写真（1-①）



企画展会場内の写真（1-②）

天保14年（1843）に描かれた益富家先祖とされる山縣三郎兵衛の肖像画や、平戸藩主から下賜された、鯨を釣り上げる恵比須が描かれた掛け軸、酒造の鑑札などを展示。これらの展示では、益富家の平戸藩との繋がりと、益富家が、先祖や家を重んじながら、益富家を中心に、番頭に相当する別当家が協力し合って事業展開させていたことを益富資料によって紹介している。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



企画展会場内の写真（2-①）



企画展会場内の写真（2-②）

捕鯨図説の「勇魚取絵詞」にも登場する、益富家に伝わる益富資料の萬鈔や剣といった古式捕鯨では欠かせない捕鯨道具、そのほか、島の館の収蔵資料から、実際に生月島の捕鯨で用いられた捕鯨道具を展示している。



企画展会場内の写真（3-①）



企画展会場内の写真（3-②）

古式捕鯨を描いた捕鯨図説の傑作とも言う益富組の捕鯨の様子を描いた「勇魚取絵詞」の中でも、大村藩藩主大村家に伝わった、大村歴史資料館所蔵の彩色の施されたものをパネルにし、益富組捕鯨の捕鯨準備から捕鯨、解体までを解説展示している。併せて、大村歴史資料館所蔵の「勇魚取絵詞」を借用して展示。また、松浦史料博物館所蔵の「勇魚取絵詞」出版の際に用いた版木と、附録の鯨肉食の料理本、「鯨肉調味方」の実物と版木を展示している。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



企画展会場内の写真（４-①）



企画展会場内の写真（４-②）

益富組捕鯨において、出漁の際や正月などに披露され、益富家の捕鯨撤退後も、生月島で、祝いの席などで披露され継承されてきた生月勇魚捕唄で用いられる勇魚太鼓を展示している。「勇魚取絵詞」には、生月勇魚捕唄の中にあって、現在に伝えられなかった羽指踊の様子が描かれている。

【来館者の声】

- 実物の捕鯨道具を見ることができて良かった。
- 多くの人たちが命がけで捕鯨に取り組んでいたことが分かった。鯨や人と海の関係が学べた。
- 展示資料の「鯨肉調味方」の原本と版木を実際に見ることができたことが貴重な体験になった。
- 海の生き物に畏敬の念を持ち、すみずみまで利用して生きてきた人々を知ることができて良かった。

2. 関連事業の内容

■ 関連事業名①鯨組主益富家居宅跡特別公開

【開催日時】2025年 11月23日（日） 10:00～14:00

【開催場所】生月支所・鯨組主益富家居宅跡

【参加者数】150名

【目標・内容】

- 生月地区のイベント「いきつき勇魚まつり」と共催で、鯨組主益富家居宅跡特別公開を実施。「いきつき勇魚まつり」会場から益富家居宅跡までは、シャトルバスを運行し、集客を図った。特別公開とした理由は、通常であれば公開時でも敷地内に入ることが許されても、建物内に立ち入ることはできないが、今回は座敷など、建物内に立ち入っての見学が許されたところにある。島の館では、企画展の展示資料等からパネルを作成し、座敷内で出張展示を行った。



関連事業の実施状況写真（1-①）
（「いきつき勇魚まつり」会場）



関連事業の実施状況写真（1-②）
（シャトルバス発着所）

「いきつき勇魚まつり」会場にブースを設置し、鯨組主益富家居宅跡公開について周知・案内を行った。会場駐車場から、シャトルバスを運行した。



関連事業の実施状況写真（2-①）
（益富家見学の様子）



関連事業の実施状況写真（2-②）
（益富家敷地内恵比須神社見学の様子）



関連事業の実施状況写真（2-③）
（益富家座敷1）



関連事業の実施状況写真（2-④）
（益富家座敷2）

鯨組主益富家居宅跡では、平戸市役所の文化財担当職員や島の館の職員により、平戸藩の藩主のくぐった御成門、藩主や司馬江漢などが訪れた座敷、大漁祈願として建てられた豪華な恵比須神社など、要所の案内を行った。来場者には、益富組捕鯨が盛んで、益富家が繁栄していた当時の雰囲気思いを馳せてもらった。

【来館者の声】

- 今まで中に入ることがなかったが、今回入ってみて、すごく静かで歴史を感じた。展示も良かった。
- 普段、公開されていないので、見ることで良かった。
- また参加したい。

■ 関連事業名②平戸市生月町博物館・島の館 30 周年記念式典

【開催日時】 2025年 11月29日(土) 10:00 ~ 12:00

【開催場所】 平戸市生月町博物館・島の館

【参加者数】 60名

【目標・内容】

- 平戸市生月町博物館・島の館30周年を記念して記念式典を実施。地元の区長やまちづくり協議会の代表といった、生月地区を代表する人たち等を来賓として招待し、島の館の30年の実績を紹介するなどした。式典では、祝いの席ととらえて、益富組捕鯨の出漁や正月に組主益富家で披露され、益富家が捕鯨から撤退した後も、生月島で結婚式などの祝いの席で披露され続けてきた生月勇魚捕唄を披露した。



関連事業の実施状況写真(1-①)
(生月勇魚捕唄披露)



関連事業の実施状況写真(1-②)
(島の館実績報告)

生月島の方を招待し、祝いの席として「生月勇魚捕唄」を披露した。

また、生月島の捕鯨の歴史や文化、水産業などについて紹介してきた平戸市生月町博物館・島の館の30年の実績を紹介した。

■ 関連事業名③益富組捕鯨創業 300周年記念シンポジウム「益富組捕鯨の成り立ち」

【開催日時】2025年 11月29日(土) 13:30～17:00

【開催場所】平戸市生月町開発総合センター

【参加者数】200名

【目標・内容】

●益富資料をもとに捕鯨史の研究を進める末田智樹氏(中部大学教授)、古賀康士氏(同志社大学准教授)、学芸員として益富資料の整理に携わり、益富資料に詳しい福岡市総合図書館学芸員の鈴木文氏を招いて、個別発表とパネルディスカッションを行った。

また、12時からシンポジウムの開始時間の13時30分までの1時間30分の間、会場前のロビーで、現在も捕鯨が続く和歌山県太地町や、鯨料理が伝統食として根付く生月島の鯨料理の振る舞いを実施し、捕鯨文化や歴史について、耳で聞き、舌で味わうことのできる貴重な機会とした。



関連事業の実施状況写真(1-①)
(シンポジウム受付)



関連事業の実施状況写真(1-②)
(シンポジウム)



関連事業の実施状況写真(1-③)
(鯨料理振る舞い会場)



関連事業の実施状況写真(1-④)
(鯨料理振る舞いの様子)

益富組捕鯨創業300周年記念シンポジウムを実施し、益富組捕鯨の専門家を招いて、個人発表とパネルディスカッションを行い益富組捕鯨についての理解を深める機会とした。

シンポジウム前には、会場前のロビーで鯨料理の振る舞いを実施。鯨肉食の文化について、舌で味わい理解を深める機会とした。

【来館者の声】

- 生月で捕鯨がいかに重要な産業であったのかよく分かった。いつか生月で捕鯨が復活することを願っている。
- 納屋場で解体中の鯨からの部位を盗む鯨泥棒の「かんだら」の話が面白かった。
- 普段聞くことができないような内容を、4名の先生に話していただきよくわかった。益富組と鯨の関わりが分かった。
- 鯨料理を食べて鯨への考え方や見方が変わった。
- クジラなど、資源として海の生き物は必要不可欠だが、いかに将来に残していくかは難しい課題だと思った。
- 益富家が、福岡をはじめ、全国につながりを持っていたことが分かった。
- いろいろな料理を作って、参加された方に食べていただく活動は大変良いと思った。
- 生月は海に囲まれている島なので、この先も海なしでは生きられない島だと痛切に感じた。益富家があったからこそ、今まで続いていると強く感じた。
- 珍しいおいしい鯨料理をたくさんいただき感謝している。鯨色がもっと一般化し、みんなが普通に食べられるよう捕鯨が発展すると良い。

【事業全体のまとめ】

- 生月漁業協同組合や館浦漁業協同組合と協力することにより、実際に、各漁協に所属する定置網の漁船に乗って、体験しながら漁業者の話を聞くことができたり、漁業と関りながら活動する水産会社のまき網漁業の網の技術など、平生見たり聞いたりすることのできないところまで聞き取ったりすることができた。これらを、とくに「生月島の漁業の発展」展示に活かすことができた。
- とくに後援等とすることはなかったが、日ごろから関わりのある平戸市内の松浦史料博物館と早い段階から事業について情報共有等を行っていたので、当初は捕鯨図説のみを借りることを考えていたが、それだけではなく、貴重な版木を借りて展示することができた。
- 競漕船大会のブース展開や鯨組主益富家居宅跡公開を、地域や益富家関係者と連携しながら行うことにより、相乗効果を生み出し、地域全体で盛り上がることができた。
- シンポジウムを、「鯨料理振る舞い」と合わせて行うことにより、観たり聞いたりするだけではなく、捕鯨文化について舌で理解してもらえ、より身近に感じてもらうことができた。また、シンポジウムに関心のある人たちには鯨料理を味わってもらい、シンポジウムに関心のない人たちには鯨料理を味わうついでにシンポジウムに参加してもらうことができたので、相乗効果を生み出すことができた。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. (一財) 平戸市振興公社	スタッフ協力等
2. 生月漁業協同組合	展示資料貸出、益富家居宅跡公開時の駐車場の使用許可、情報提供等
3. 館浦漁業協同組合	競漕船大会時の協力、情報提供、展示資料貸出、展示協力等
4.	
5.	

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 回覧板	ポスター・チラシの配布
2. 町内放送	11月23日、11月29日の午前
3. 全国の機関へのポスター・チラシ配布	
4.	
5.	

以上